

# 教育費シミュレーション 図表の見方

## シミュレーション結果

将来に渡っての資金残高の目標とする金額である残高目標を表示しています。

### 資金残高の残高目標

2008年度までは30万円以上、2009年度から2011年度までは60万円以上、2012年度から2016年度までは150万円以上、2017年度から2026年度までは350万円以上、2027年度以降は600万円以上

シナリオ ID	一郎様	次郎様	三郎様	教育費支出合計額	シミュレーションの結果			
					残高目標判定	資金残高の最小額		詳細ページ
1	全て公立	全て公立	全て公立	3,846万円	残高目標を上回る	2006年	100万円	ページ 5
2	全て公立	全て公立	高校、大学が私立	4,335万円	残高目標を下回る期間が残る	2006年	100万円	ページ 17
3	全て公立	高校、大学が私立	全て公立	4,312万円	残高目標を下回る期間が残る	2026年	-72万円	ページ 29
4	全て公立	高校、大学が私立	高校、大学が私立	4,802万円	残高目標を下回る期間が残る	2026年	-213万円	ページ 41
5	高校、大学が私立	全て公立	全て公立	4,303万円	残高目標を下回る期間が残る	2024年	-99万円	ページ 53
6	高校、大学が私立	全て公立	高校、大学が私立	4,792万円	残高目標を下回る期間が残る	2026年	-213万円	ページ 65
7	高校、大学が私立	高校、大学が私立	全て公立	4,769万円	残高目標を下回る期間が残る	2026年	-553万円	ページ 77
8	高校、大学が私立	高校、大学が私立	高校、大学が私立	5,259万円	残高目標を下回る期間が残る	2026年	-693万円	ページ 89

シミュレーションを行ったシナリオを表示しています。1行ごとに1つのシナリオを表します。

各シナリオにおける、それぞれのお子様の教育費のケースのタイトルを表示しています。

各シナリオにおける、お子様全員分の今後必要となる教育費支出の合計額を表示しています。

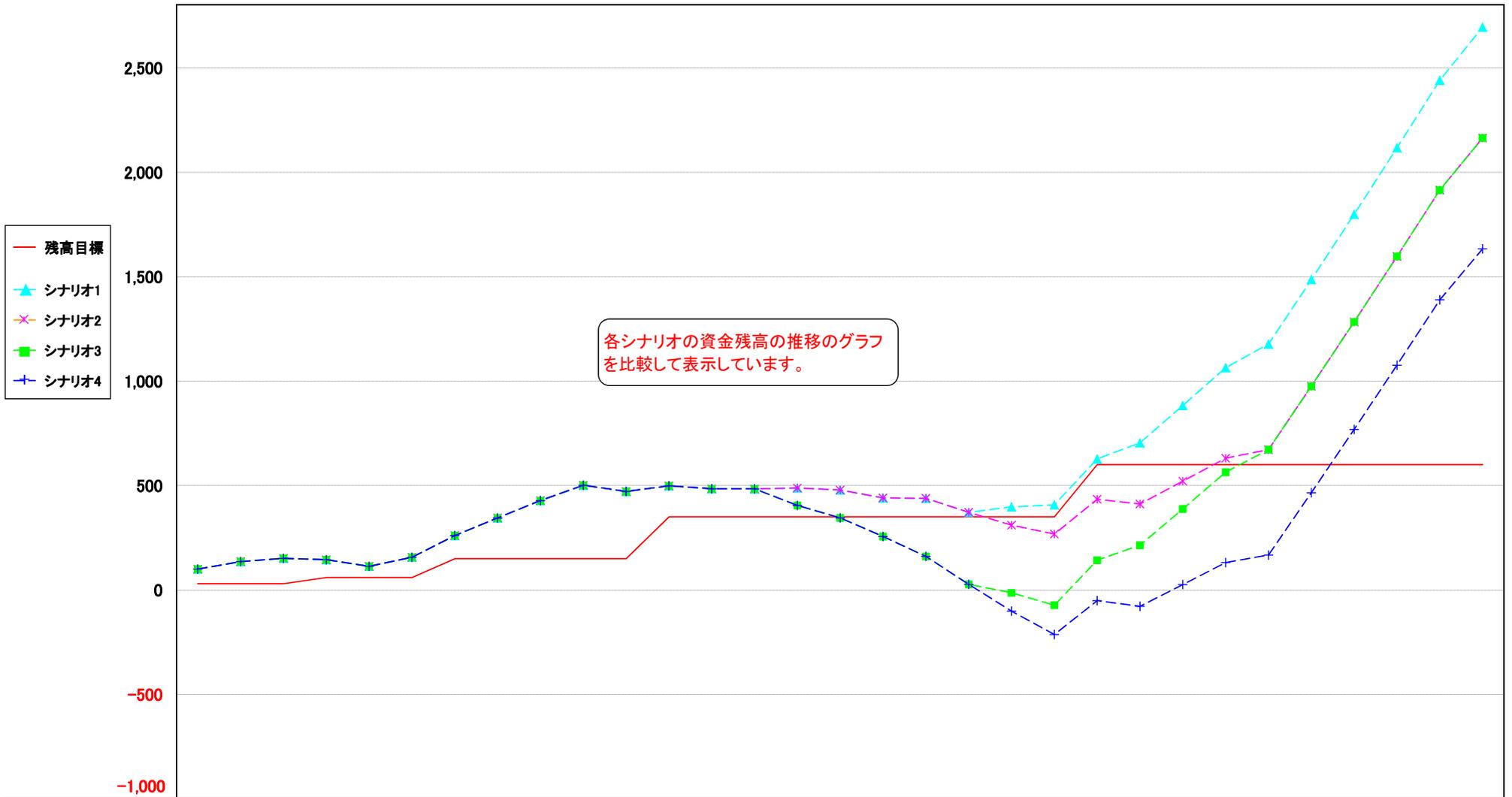
各シナリオにおける、資金残高が将来に渡って残高目標を上回るか、残高目標を下回る期間が残るかの判定を表示しています。

各シナリオにおける将来に渡っての資金残高の推移の中で、その最小額と最小となる年度を表示しています。

お子様の人数によって、シナリオの数は以下の通りとなります。  
 1人 シナリオ数は4個  
 2人 シナリオ数は $3 \times 3 = 9$ 個  
 3人 シナリオ数は $2 \times 2 \times 2 = 8$ 個  
 4人 シナリオ数は $2 \times 2 \times 2 \times 2 = 16$ 個

シナリオ1からシナリオ4までの資金残高の推移

(万円)



年度		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
年齢	太郎様	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
	花子様	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62

年度末時点における、夫、妻の方の年齢を表示しています。資金残高が多い時期や少ない時期と年齢との関係を確認することができます。

注) 年齢は年度末時点を表示しています。

### シナリオ1 シミュレーション詳細

各シナリオのシミュレーション詳細の図表は、「資金残高キャッシュフロー」と同じ形式の図表を使用しています。シミュレーション詳細の図表については、「資金残高キャッシュフロー」の図表の見方をご参照下さい。